

16年ぶり
2度目

金木中ソフトボール部

県大会優勝



白川 さつき

「県大会では、いつも負けていた平賀東中に決勝で勝つことができ、とてもうれしい」



白川 未奈子

「県大会で優勝できてとてもうれしいです。自分なりに県大会では、力を十分出し切れたと思います」



相馬 麻衣子

「決勝は、危ない回も何度かあったけど、今までこのチームでやってきた試合で、一番心に残る最高の試合でした」



沢田 昌江

「県大会では、みんなが協力しあって今まで勝てなかった平賀東中に決勝で勝てたので、うれしくて興奮しました」



福士 由夏

「今回の県大会では、エラーがあまりなく、バッティングも好調で、いい試合だったと思います」

七月二十三日から二十五日まで開かれた第四十九回県中学校体育大会夏季大会に、北郡代表として出場した金木中学校ソフトボール部が見事、十六年ぶり二度目の優勝を飾りました。

県大会では、初戦を16-0と大勝し、準々決勝は難敵と思われた十和田中学校を6-1で下しました。準決勝は、昨秋の県大会新人戦で敗れている浪岡中学校。雪辱を期して臨んだ試合は、3-3のシーソーゲームから3点取って突き放し、6-3のスコアで辛勝。迎えた決勝の相手は過去三年間、練習試合などを含め一度も勝つたことのない平賀東中学校。地元Vを狙う平賀東中に対し、常に先手先手とリードした金木中が、10-5で逃げ切り優勝しました。

七月二十九日、長谷川正夫校長、鳴海幸憲監督と役場を訪れた部員十一名が熱戦を報告。鳴海町長が「みんな素晴らしい笑顔だ。県大会で優勝することは至難の業、よく頑張った」と選手をねぎらいました。

まちのびる

◀手づくり案内板を
設置したみなさん



斜陽館までの

道しるべ

〜竹峰書道院〜

私たちが斜陽館をアピール。竹峰書道院（教範II大橋昭彦）の門下生の皆さんがこのほど、金木駅から斜陽館までの十箇所に通じるべを設置しました。

門下生の皆さんは、夏休みと同時に津軽鉄道を利用して

来る斜陽館目当ての観光客が増えたことから、迷うことなく斜陽館まで行ってもらいたい、と案内板設置を考案。総ヒバ造りの案内板は、駅前から斜陽館までの交差する道路ごとに、残りの距離と所要時間が記されている手づくり案内板です。

町民の皆さんの力添えがあつてこそできる観光アピール。官民一体“となつて、今後もしもさまざまなことに取り組んでいきたいものですね。



▶手を合わせ
祈願する講中の方々

真新しい 香爐

〜川倉賽の河原〜

川倉賽の河原（講中代表II中谷正）にこのほど、石の香爐（こうろう）が新たに設置され、七月二十六日、本堂前で開眼法要が行われました。

川倉賽の河原講中では、例大祭（八月十三日〜十五日）

前に立派なものを、と製作を依頼していました。香爐は、秋田・山形県境にある鳥海山で採取した石を使い、その重量は八トンを超えるとのこと。

神事では、講中の一人ひとりが香爐に献花、関係者が除幕して開眼法要を無事に終えました。

「県内外から多くの参拝客でにぎわう例大祭に間に合つてよかつた」と関係者は話していました。

文化観光立県宣言

「カウンタダウンイベント」

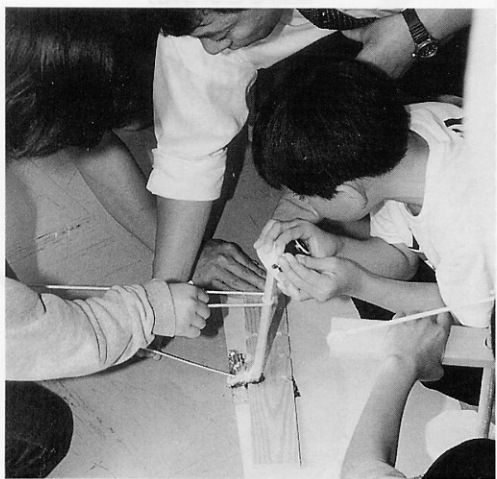
七月十九日、三内丸山遺跡で青森県文化観光立県が宣言されました。

文化観光立県宣言に先立ち、県内六十七市町村でカウンタダウンイベントが行われ、七月九日に嘉瀬小学校で「マイギリ式」という方法で火おこし作業が行われました。

その後、五所川原市に結集された西北五広域の灯火「稲穂輝く大地・奥津軽の灯火」が十九日、

中央公民館で行われた火つなぎセレモニーで、対馬紗梨さん（六年）と山中春菜さん（六年）から鳴海町長に引き継がれました。各市町村で趣向を凝らしたイベントが催される中、当町は津軽三味線の演奏で「未来の火」に夢を託しました。

その後、五所川原市に結集された西北五広域の灯火「稲穂輝く大地・奥津軽の灯火」が十九日、



▲県内のトップを切って
嘉瀬小で行われた「火おこし」

が十九日、県内五ブロックの広域の火と一緒に県民の火となり木村知事の手によって、三内丸山遺跡で「歴史の灯火」として点火されました。



▲元気よく安全宣言

金木警察署管内の交通安全対策協議会が、交通安全旗を引き継ぎながら事故防止を訴える、第十六回青空リレー式交通安全大会が七月二十一日、役場前駐車場で行われました。小泊村を出発した安全旗は、市浦村、中里町とリレーされ、最終地点の金木町へ引き継が

事故のない 明るい街づくり

夏の交通安全運動

大会には、交通安全関係者や保育所の児童ら二百人が参加。成田教育長のあいさつに続き、葛西文昭金木地区安全協会長、伊與部豊金木警察署長が「子供の事故防止と若者の暴走運転追放のローガンのもと、運動を頑張りました」と激励しました。最後に、第一保育所の伊丸岡仁君と白川小夏ちゃんが「道路を渡る時は、左右をよく見て、飛び出しは絶対しません」と元気よく安全宣言をしました。



▲「やぐら」を囲んで盆踊り

サントピアホーム

「高めよう福祉の心、広めよう愛の輪」をスローガンに、大東ヶ丘サントピアホーム（園長 花田昭一）で七月二十五日、恒例の夏祭りが催され、園生やその家族、町民ら三百人が交流を図りました。花田園長や鳴海町長のあいさつの後、町の郷土芸能「金

みんなで踊ろう 輪になつて踊ろう

木さなぶり荒馬」「嘉瀬の奴踊り」が披露されたほか、園生が一月間練習を積んできた「登山ばやし」を精いっぱい披露。鳴海町長も輪の中に入り、園生と一緒に踊り、祭りを盛り上げていました。その後、夜空には大輪の花火が打ち上げられ、「やぐら」を囲んでの盆踊り。みんなで踊ろう、輪になつて踊ろうと参加者は、二重、三重の輪になつて盆踊りをし、食べて、飲んで、歌つて、祭りを楽しみました。



▲火の女神からリーダーたちへ分火

午後七時、親子キャンプの目玉であるキャンプファイヤーがスタートし、中谷会長扮する「火の神様」が登場。火の神様から火の女神へ分火され、トーチからトーチへと全児童に火が伝わりました。その後、燃えさかる炎を囲み親子が一緒にフオークダンスをしたり、花火大会などで楽しい夜を過ごしました。

自主性とふれあい

川倉小「親子キャンプ」

親子のふれあい、児童のふれあい、PTAのふれあいを深めたい、と川倉小学校PTA（会長 中谷金義）が主催する「PTA親子キャンプ」が七月二十五、二十六日に町営オートキャンプ場で行われ、七十組の親子と教職員ら百五十人が参加しました。川倉小学校では伝統的に、一年生から六年生までを三班に分けて、各班のリーダーを中心に活動をする独特の取り組みをしています。子供たちの自主性を、の狙いから、テント設営やキャンプファイヤーの準備など食事以外はすべて児童たちの手で行われました。



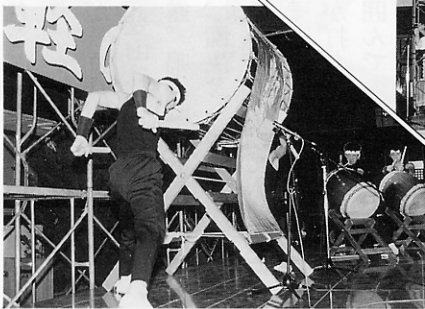
春



冬

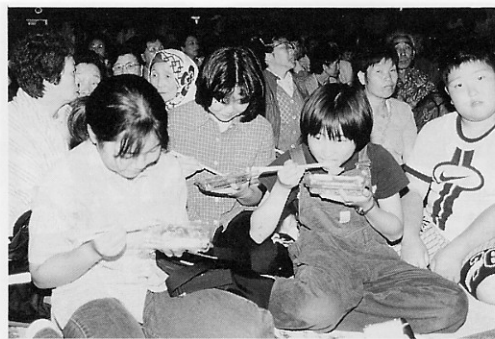
郷土芸能

夏



秋

第十一回 津軽の火祭り



夏祭りの幕開けを飾る第十
一回津軽の火祭りが七月二十
七日、役場前特設会場で行わ
れ、大勢の町民らが訪れまし
た。

夏休み最初の日曜日とい
うこともあり、会場には子供ら
の姿も多く見られ、飲みなが
ら、食べながらの祭りを楽し
んでいました。

五穀豊穡を祈願する火祭り
は、金木町の郷土芸能を四季
折々の型で披露しており、春
の「金木さなぶり荒馬」、夏
の「嘉瀬奴踊り」、秋の「か
なぎ登山囃子」、冬の「津軽
三味線」と、見事な笛や太鼓、
踊りに客席から盛んに拍手が
送られていました。

第二部、全国でも指折りの
実績を誇る大館曲げわっぱ太
鼓の演奏は、和楽・洋楽あい
まみれ、躍動感あふれるパチ
さばき、夜空に響きわたる和
太鼓の音、聴衆が、目も、耳
も、心もくぎづけにされる演
奏に、興奮と感動で拍手が鳴
りやみませんでした。

太宰をしのぶ④ 金木町「太宰ゆかりの地」(3)

金木町太宰会々々長
木下 巽

金木山雲祥寺は、太宰治記念館「斜陽館」につぐ金木詣でのメッカとして有名です。

太宰さんが満二歳になった年の五月ころ、近村タケさん（満十三歳、後の越野タケ）が女中として津島家に住み込みます。

タケさんの主な仕事は、まだ「ぶらぶら歩き」の太宰さんの子守であつたということです。

三、四歳のころ、タケさんに連れられて雲祥寺に行き、地獄極楽の掛け軸を見て興味を持ち「これ何だ、これ何だ」と言つて、同じ絵を何回も聞いたそうです。また、卒塔婆についている鉄の輪を、おもしろがって回したということです。タケさんが幼い太宰さんを、たびたび雲祥寺へ連れていったのは、近村家の菩提寺であるという理由だけでなく、そこが古くから村童の遊び場の一つでもあつたからとも言われています。

作品「思ひ出」に、詳細に描かれています。「たけは又、私に道徳を教へた。お寺へ屢々連れて行って地獄極楽の御繪掛地を見

せて説明した。火を放けた人は赤い火のめらめら燃えてゐる籠を背負はされ、めかけ持った人は二つの首のある青い蛇にからだを巻かれて、せつながつてゐた。血の池や、針の山や、無間奈落といふ白い煙のたちこめる底知れぬ深い穴や、至るところで、蒼白く瘦せたひとたちが口を小さくあけて泣き叫んでゐた。嘘を吐けば地獄へ行ってこのやうに鬼のために舌を抜かれるのだ、と聞かされたときには恐ろしくて泣き出した。」

この雲祥寺「十王曼陀羅」の掛け軸は、お盆と正月だけ開帳されてきました。太宰さん没後、ファンが次々に訪れるために、現在は一年を通して見学できるように掲示されています。「拝観自由」の心遣いが嬉しい限りです。そのため参観者が絶えません。

続いて「思ひ出」に、「そのお寺の…、卒塔婆には、満月ほどの大きさで車のやうな黒い鐵の輪のついてゐるのがあつて、その輪をからから廻して、やがて、

そのままと止つてじつと動かないならその廻した人は極楽へ行き、一旦とまりさうになつてから、又からんと逆に廻れば地獄へ落ちる、とたけは言つた。…秋のころと記憶するが、私がひとりでお寺へ行つてその金輪のどれを廻して見ても皆言ひ合せたや



▲雲祥寺にある地獄絵図

うにからんからんと逆廻りした日があつたのである。私はやぶれかぶれかんしゃくだまを抑へつつ何十回となく執拗に廻しつづけた。日が暮れかけて來たので、私は絶望してその墓地から立ち去つた」と描いています。仮に、この部分が虚構であるに

しろ、おのれの運命がいつも正しく回転するよう執拗に卒塔婆の鉄の輪を回し続ける少年の姿に、注目したいのです。また、地獄極楽の絵図が、太宰さんの性格形成になにほどの影響を与えたかは知るよしもないのですが、素朴な勧善懲悪の思想はやわらかく太宰少年の頭に、砂地にしみこむ水のように、にじませていったのではないでしょうか。

先月の三十一日、雲祥寺において「太宰会講話会」が開催され、ご隠居一戸哲三さん（第二十三世住職）にお話を聞くことが出来ました。それにより、太宰さんが生家に疎開中の昭和二十一年三月、一戸さんの呼び掛けで青年文芸愛好者が集まつて「金木文化会」という文化サークルが生まれました。その発会式で太宰さんは「文化とは何ぞや」と題して講演し、「文化とは優である。優とは人を憂うと書くが、それが文化だ」と、熱く語つたということ。河盛好藏宛の太宰書簡には、「私は、優という字を考えます、優れる、優良可なりというし、優勝、優しいとも読みます。この字をよく見ると、人偏に、

憂うると書いています。人を憂える、人の淋しさ侘しさ、つらさに敏感な事、これが優しさであり、いま人間として、一番優れている事じゃないかしら。」（昭21・4）と書いています。この「優しさ」が、太宰文学の魅力の一つでもあります。昭和二十一年七月、金木文化会の機関誌「創刊号」金木文化」が発行されました。その題言として「金木文化に贈る言葉「汝を愛し、汝を憎む」／太宰治」と、巻頭に掲載されています。この言葉は、作品「津軽」序編にも書かれています。太宰さんが東京に戻つて間もなく、残念ながら会としての活動は滞つてしまつたということです。しかし、この文化の種は分散しながらも、現在の金木町の文化活動に引き継がれ、たしかに息づいています。昭和二十三年の太宰没後の八月、金木文化会が「太宰治をしのぶ会」を開催し、藤沢美志子さんが「桜桃」を朗読し太宰さんへの思いを述べています。これが今なお続いている「桜桃忌」の前身のひとつとも考えられます。それから五十年の歳月が流れました。

「ごりん」全国農業コンクール 原田 僚さん(中柏木) 「名誉賞」受賞

第四十七回全国農業コンク

ール全国大会(主催毎日新聞社・滋賀県・財団法人富民協会)が七月十五日から十七日まで大津市民会館で開催され、原田僚さん(中柏木)が映える名誉賞に輝きました。

この大会は、農業者が協業化や自立経営の確立、技術研究の成果を発表し、これを広く紹介・普及して、これから農業・農村の発展に資する



▲毎日新聞社・斉藤明社長から賞杯を受ける原田さん

後、発表されました。種芸・園芸・畜産など五部門の素晴らしい発表の中で、原田さんは園芸部門でアメリカ合衆国並みの十二ヘクタ

ールの大規模経営を実現し、全園を樹高の低い樹でリンゴをつくる「わい化栽培」や無袋栽培、マメコバチによる受粉など徹底した省力化を図るとともに、馬ふんを使ったもみがらたい肥の施用など環境にやさしい農業を実践していることが高く評価されました。その結果、原田さんはじめ上位十人へ、最優秀の名誉賞(農林水産大臣賞、毎日新聞社賞、富民協会賞)並びにクボタ賞が贈られました。

原田さんは「経営を拡大するにあたり、何度となく失敗したこともあった。しかし、失敗を恐れていたならば、今の私の経営はなかったはず。失敗をしたら、それを教訓にさらにやり直すことを、次の時代を担う若者たちに伝えていきたい」。そして最後に、「リンゴが輸入されても、たちうちできるように欧米並みの低コスト化を目指し、これからも甘くてヘルシーなリンゴを『太宰の生誕地・金木町』からお届けします」と、スライドを使いながら発表しました。

じいちゃんねんきん



第3号被保険者の届出もれは
ありませんか

厚生年金や共済組合に加入している配偶者に扶養されている妻や夫は、国民年金の第3号被保険者になる資格があります。第3号被保険者の保険料は、配偶者が加入している年金制度で負担するので、本人が納める必要はありません。また、配偶者の保険料に、その分が上乘せされることもありませ

ん。しかし、第3号被保険者に該当した事を届出していないと、保険料を納めていない期間として扱われ、将来、年金が減額されたり、受ける権利を失うこととなります。また、配偶者が離職したときは、第3号被保険者だった人も国民年金の第1号被保険者となり、保険料を納めていくこととなります。そして配偶者が再就職したときは再び第3号被保険者に該当した旨を届出することになります。これらの届出を忘れたままにしておくと、やはり保険料の未納期間になってしまうので、注意してください。

尿所見異常について

内科 井沼 洋



尿は腎臓で造られます。腎臓は脊髄の左右に一個ずつあり（ほぼ腰に手をあてた時の位置）、約一〇〜一二センチメートルの大きさでソラ豆の形をしています。腎臓の内部には糸球体と尿管があり、血液中から糸球体を通して水分や分子の小さいものが濾過され（原尿）、それが尿管の中を流れていくうちに体に必要なものも再吸収されて尿が造られます。

腎臓病にかかると多くは尿に蛋白が出てきます。また、腎臓病がなくとも心不全、発熱時、激しい運動後などにみられます。横になっていると蛋白が出ず、立位で出ることもあります。これを起立性蛋白尿といいます。比較的若い人にみられます。

〈蛋白尿〉

腎臓病にかかると多くは尿に蛋白が出てきます。また、腎臓病がなくとも心不全、発熱時、激しい運動後などにみられます。横になっていると蛋白が出ず、立位で出ることもあります。これを起立性蛋白尿といいます。比較的若い人にみられます。

健診等において尿検査は必須項目であり、比較的尿所見異常が見受けられます。今回尿所見異常をどのように考えたらよいか進めてみたいと思います。

尿検査の異常として主なものに蛋白尿、血尿、糖尿があります。この検査は試験紙を尿にひたし、その変色する程度で(一)〜(卅)の五段階で表示

要となります。尿に血液が混じる場合を血尿といいます。血液が多く含まれる場合、尿は赤く赤褐色になり肉眼でもわかります。このような血尿を肉眼的血尿といいます。これに対し、血液の量が少ないために尿の色は普通と変わりなく、試験紙や顕微鏡で調べて初めてわかる血尿を顕微鏡的血尿といいます。試験紙法では疑陽性（実際は血尿でないが血尿例と判定してしまうこと）の場合もあるのですが、血尿を指摘され外来受診されたときは、尿沈渣赤血球がどのくらい含まれているか調べます。これで異常がみられた場合は、その血尿が腎臓の糸球体由来する糸球体性血尿か、腎臓より下部に由来する尿路性血尿か調べます。通常、糸球体性血

尿の場合は尿に含まれる赤血球の約八〇パーセント以上に変形像が認められるので鑑別できます。その後、血尿に対する精密検査を行います。

〈糖尿〉

尿に糖が含まれる場合を糖尿といい、二つの原因が考えられます。まず、血液中の糖が高いため原尿中の糖が多く、尿管での糖の吸収がおいわず尿に糖が含まれる場合で、糖尿病を考へなければなりません。次に、血液中の糖は正

常であるが、尿管障害のために原尿からの糖の吸収能力低下している場合で、腎性糖尿といえます。

健診等における尿検査（試験紙法）は短時間で容易にできる検査法です。しかし、尿

所見異常のなかには病気の発現前に発見する糸口となる場合があります。今年も健診で尿所見異常を指摘され外来受診された方もおられましたので、この紙面をかりておまかに考えてみました。

伝言板

◎届いています

七月十六日

芦野公園内町営相撲場付近

（キーホルダー付車のカギ

と家のカギ）

三月二十六日

芦野公園内駐車場（腕時計）

三月三十日

藤枝地内（黒の財布）

心当たりの方は、金木警察署 署落し物係まで。

◎係から

このコーナーを利用したい方は役場企画室まで。

あなたの善意
ありがとうございます

（敬称略）

▼町へ

老人福祉のために

五〇,〇〇〇円

下山 康弘（若松町）

▼社会福祉協議会へ

福祉のために

原田 一寛

（小田川土地改良区理事長）

五〇,〇〇〇円

タラコの会（会長 長尾好晃）

一〇,〇〇〇円

桜の会（代表 逢坂昭子）

一〇,〇〇〇円

戸籍の窓

おめでとう
七月届出分

おしあわせに

おくやみ

加藤 麻彩(金光) 神原
三上 魁太(聡) 川倉
白川 果歩(裕治) 川倉
伊丸岡 健(満仁) 金木
佐々木 陸(通) 金木
葛西 星奈(拓) 喜良市
中谷 美希(宏) 金木

須郷 寛央(博) 鶴田町
藤井 亜須香(誠) 金木
川島 栄一(昇一郎) 金木
三上 玉美(岩雄) 中里町
鎌田 信一(富雄) 嘉瀬
長谷川 史子(昭二) 木造町
小松 健春(光春) 嘉瀬
廣岡 朋子(清) 兵庫県

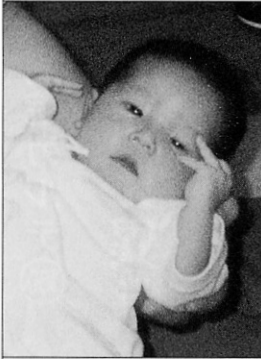
下山 與一郎(85才) 金木
福長 正春(57才) 金木
高松 寅吉(72才) 金木
伊藤 キサ(90才) 金木

松川 宣史(君男) 嘉瀬
津島 里枝(勇蔵) 金木
笹森 大樹(竹志) 鶴田町
舛甚きよか(幸雄) 金木
竹内 彰(正彦) 金木
白戸 暁子(繁春) 黒石市
今 七知(義行) 金木

吉田 敏正(77才) 金木
長内 金義(85才) 金木
今 喜代司(71才) 川倉
津島 ソワ(83才) 金木
吉崎 ノリ子(52才) 嘉瀬
中谷 シヨ(85才) 川倉
泉谷 サツ(57才) 川倉
外崎 慶造(83才) 金木
藤井 スミ(97才) 金木
福井 幸二郎(59才) 喜良市

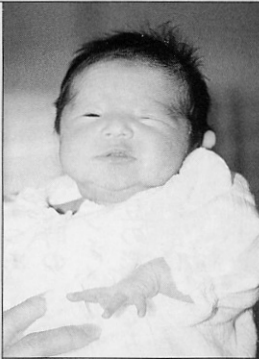
この欄は、金木町に住所を有している方々を掲載しています。掲載を希望しない方は町民課窓口に出届の際申し出てください。

はじめまして



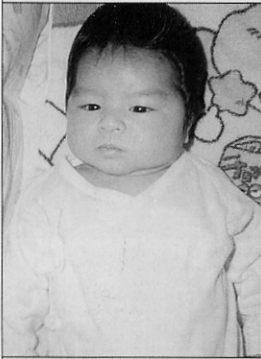
魁太

元気に育ってほしい
(父 聡より)



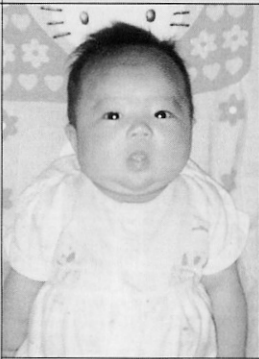
麻彩

やさしく元気に育ってほしい
(母 鐘子より)



健

元気モリモリに育ってほしい
(父 満仁より)



果歩

丈夫な子に育ってほしい
(父 裕治より)



美希

姉妹仲良く元気に育ってほしい
(母 貞美子より)



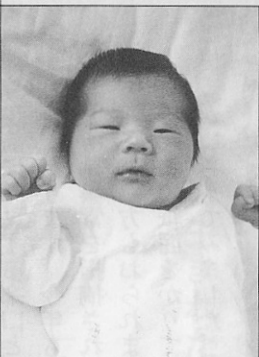
陸

いつも笑顔で元気な女の子！
(母 史代より)



龍希

明るく健やかに育ってほしいな…
(母 江美子より)



恵里佳

健やかに育ってほしい
(父 圭司より)

人口と世帯

	7月末現在	前年同月比
男	5,861人	△ 18人
女	6,450人	△ 12人
計	12,311人	△ 30人
世帯数	3,937	10